

【模範解答】

この写真集には『VIE LA FRANCE (フランス万歳)』という作品名が付いている。これを文言どおり捉えれば肯定的な意味ともとれるが、読み方によって皮肉を込めた否定的な意味としても解釈できるため、読み手の創造力を掻き立てる一作だと感心した。私がこの写真に写る子どもの1人になったとしたらどのようなことを思うのか、以下に考察していきたい。

写真を分析する上で特筆すべきことを以下に3点まとめたい。1つ目は、白黒写真で撮影されている点だ。カラー写真が普及したのは1900年代後半であることから、この写真は戦後間もない時期にフランスで撮影されたことがうかがえる。フランスは世界的に見て先進であるため、この時期も比較的豊かだったと思われるが、それでも戦争の影響は少なからず受けているのではないか。2つ目は、建物の様相だ。写真の建物は、倒壊寸前とは言わなくとも、決して新しいものとは言えない。これは老朽化が原因のようにも思えるが、先述の撮影時期も相まって、私は戦争・内紛が原因であると推測した。そして、建物であるのに物が何もない様子から、この時期には物資が不足していることがうかがえる。3つ目は、人数(匹数)と彼らの表情だ。写真には男の子2人、女の子2人、大人2人、犬2匹が映っており、その誰もが“1人ではない”様子が読み取れる。また、彼らの表情は笑顔でも絶望でもない様子から、リラックスし気だるげな気持ちであることが推測できる。

以上の分析より、私がこの写真に写る子どもの1人になったとしたら、以下のようなことを考えるであろう。「あーあ、なーんもなくて退屈だなー…。おもちゃは壊れちゃったし、いつもの遊び場はお父さん・お母さんが『危ないから行くな!』って言うし…。でも、僕たちには友だちがいる。センサー(?)でなーんも無くなっちゃったし、学校もどうなるか分からないけど、みんながいるからどうにかなるもんね。ふらんすばんざい! (?)」

(797字)

